

3.3.3 学会活動

国際会議での発表、招待講演ならびにコミッティーメンバーとして国際会議を運営することによって研究成果の国際的な発信を行ってきた。平成 17 年度～19 年度には、大学院生による論文および国際会議発表がそれぞれ 167 件、237 件となり、学生が第一著者のものも 80 件、136 件に達している。このように、国際会議での発表を実施し、招待講演等によって、国際的な情報発信を行ってきた。特に、平成 18 年 10 月には、第1回国際シンポジウム“International 21st Century COE Symposium on Atomistic Fabrication Technology”を、平成 19 年 10 月には第 2 回国際シンポジウム“International 21st Century COE Symposium on Atomistic Fabrication Technology 2007”を開催した。

今後は、さらに本拠点が企画・主催する国際会議、シンポジウムを開催し、より一層の国際化ならびに国際競争力の強化を図る。

国内では、日本の生産技術分野をリードする(社)精密工学会において本拠点は中心的な役割を果たしている。たとえば、学会の春季および秋季学術講演会においては当拠点の事業推進担当者によるオーガナイズドセッションを多数開催している。さらに、学会内において超精密加工専門委員会を主催しており、研究成果の発信、および学外研究者との交流の場として、これからも機能し続ける。

今後も、世界最高水準の「物づくり」拠点として定期的に国際会議での発表が継続することが必要である。